化学療法指示書 CDDP+PEM(ショートハイト・レーション) 療法

患者ID]			適応疾患
患者氏名				指示医師		* 非小細胞肺癌
身長	cm	体重	k	g 体表面積	m ²	一 * 悪性胸膜中皮腫
	r: mg/dl (cisplatin、シスプ pemetrexed、ペメ		mg/m³=(_	-Gault) ody day1 g/body day1	*3週毎投薬
	コース目 月		(day1)	Day2、3 Day2~	'プレピタント(125mg) ::アプレピタント(80mg 4:デカドロン4mg 2釒	g) 1cap 朝食後 定 朝食後
上冊合	* 点 満 塩液 100ml ルート			など)10 	00mL摂取す	ර
:]	本体① パロノセトロン注 デキサート(6.6r デキサート(1.65	E(0.75mg)		15 分	ルート確保8 アプレピタン	· I
:]	本体② 生理食塩液 ペメトレキセド (500mg/r	100mL mg n 1)	10 分	7	
:]	本体③ ソリタT1号輸液 アスパラカリウム 硫酸マグネシウ	ム注10ml	500mL 1A 8mL	60 分	7	
:]	本体④ マンニットールS	300ml	1本	30 分	7	
:]	本体⑤ 生理食塩液 シスプラチン		250mL mg g/㎡)	60分分	7	
:]	本体⑥ ソリタT1号輸液 アスパラカリウク		500mL 1A	60 分	•	

[

[

[

Ε

1	ピ	A	3	٠,	·R	1	2:	坄	与	١
•	_	_	•	_	$\boldsymbol{-}$		_	ı×	_	•

ペメトレキセド初回投与の1週間以上前にビタミンB12 $1mg(メチョバール注(500 \mu g) 2A)$ 筋注 その後ペメトレキセド最終投与日から22日目まで9週毎に筋注つづける 初回(/)、2回目(/)、3回目(/)

〈葉酸投与〉

ペメトレキセド初回投与の1週間以上前より葉酸1日1回0.5mg(パンビタン末1g分1朝食後)を連日経口投与その後ペメトレキセド最終投与日から22日目まで連日経口投与つづける

内服開始(/)、内服終了(/)

◆投与開始基準

第1コースday1開始基準	第2コース以降day1開始基準	第2コース以降の投与量減量基準(血液毒性)		
PS:0-1	PS:0-1			MTA/CDDP(mg/m²)
NEU≧2000	NEU≧2000	NEU<500及び、PLT≧50,000		前回の75%
Hb: ≧9.0		NEUに関わらず、PLT≦50,000		前回の50%
PLT: ≥100000	PLT: ≥100000			
AST/ALT≦100/112(肝臓に腫瘍なし)	AST/ALT≦100/112(肝臓に腫瘍なし)	第6- 711度不机上里港里甘油/北京法事件)		tr. Ad- \
AST/ALT≦200/225(肝臓に腫瘍あり)	AST/ALT≦200/225(肝臓に腫瘍あり)	第2コース以降の投与量減量基準(非血液毒性) 		
クレアチニンが正常値以下	クレアチニンが正常値以下		MTA(mg/m³)	CDDP(mg/m³)
予測クレアチニン・クリアランス又は、	予測クレアチニン・クリアランス又は、	下痢≧G3又は	前回の75%	前回の75%
24時間クレアチニンクリアランス≧45mL/min	24時間クレアチニンクリアランス≥45mL/min	入院を要する下痢	削回の/5%	削回の/5%
SpO2≧92%	非血液毒性≤G2(末梢神経障害≤G1)	粘膜炎以外≧G3	前回の75%	前回の75%
		粘膜炎≧G3	前回の50%	前回と同量

◆嘔気時: (開始後28日目)まで 適宜下記を投与

- 1)生食100mL +グラニセトロン(3mg)1A+エリーテン(10mg)1A 点滴静注(30分) 1日2回まで
- 2)生食100mL+デキサート(6.6mg)1A+エリーテン(10mg)1A 点滴静注(60分) 1日1回まで